

本時のねらい

家での過ごし方やお家の人の仕事を振り返り、自分でできることを考え、ペアで交流することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ロイノートのカードを使い、自分の意見を好きなだけカードを複製し記述することができる。
- ・ペア交流の際、自分の意見（カード）を相手に見せ、わかりやすく説明することができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・大型提示装置
- ・ロイノート
- ・タッチペン

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○前時の復習をする。 ○本時のめあてを確認する。 めあて【おうちのおごとにはどんなものがあるかかんがえよう】 【写真1】	・1つのカードにまとめた単元の学習計画で、これからの活動を 確認しつつ、本時のめあてを確認する。
展開 (30分)	○自分でできること（家庭で）をカードに記述し、 発表する。 ＜自分でできることの例＞ せんたく・大そうじ・はなの水やり・おふるそうじ さらあらい・いぬのさんぽ・ゴミすて など ○ペアで交流する。 【写真2】	・タッチペンまたはフリック操作を児童が自分で選択し、カードに 記入する。 ・記述内容が多くなる場合は、児童が自分でカードを複製する。 ・自分のタブレット画面を見せながら交流する。
まとめ (5分)	○本時の振り返りをする。 ＜振り返りカードの項目＞ ・いえでじぶんがしていることをおもいだすことができた。 ・かんがえたことをともだちにつたえることができた。 【写真3】	・振り返りカードに、記号（◎○△）で自己評価する。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】単元で学習することをおおまかに確認しつつ、めあてを確認している様子



【写真2】家で自分でできることをカードに記述している様子



【写真3】振り返りカードに、◎○△で自己評価している様子

児童生徒の反応や変容

- ・1つのカードにまとめた単元の学習計画を授業の最初に確認することで、活動内容の見通しを持つことができていた。
- ・カードを何枚つかうか、入力にはペンでするかフリック操作でするかなど、可能な限り自分で選択させることで、より幅広い交流にすることができた。
- ・自分のタブレット画面をペア相手に見せながら説明したことで、自分が必要と感じた場面で同様に発表することができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・授業のめあてを学習計画で確認することで、児童の作業がスムーズになり、ペア交流の時間や全体での発表の時間をしっかり確保することができた。
- ・授業者が事前に用意するカードの枚数を少なめに設定することで、児童が自らカードを複製したりカードの並びを整えたりすることができた。
- ・低学年の振り返りカードは、記号で記入できるようにすると、児童が振り返りやすく、毎回の授業で振り返りを取り入れることができた。